

公益財団法人横須賀芸術文化財団
平成 25 年度第 3 回評議員会
議 事 録

- 1 **開催日時** 平成 26 年 3 月 31 日（月）午後 1 時 30 分から午後 2 時 45 分まで
- 2 **開催場所** 横須賀市産業交流プラザ 第 1 会議室
- 3 **出席者** 評議員総数 5 名
出席評議員 5 名
上田滋、岡朋子、上条浩、菊池匡文、下里矩生
出席理事 1 名
原田恵次（業務執行理事・常務理事）

4 **議 長** 菊池匡文

5 **報告事項**

- ・平成 25 年度自主公演事業計画の一部変更について
- ・平成 25 年度第 3 回理事会以降における理事会の決議事項について
- ・平成 25 年 7 月 1 日以降の職務の執行状況について
- ・「第 5 回野島稔・よこすかピアノコンクール」の応募状況について

7 **議事の経過概要及びその結果**

定刻に評議員全員の着席を確認し、天沼事業部長が開会を宣言。

定款第 18 条の規定に基づき、出席した評議員の互選により菊池評議員が議長に選出され、併せて、定款第 22 条第 2 項の規定に基づく議事録署名人となった。

菊池評議員が定款第 19 条第 1 項に規定する定足数を満たしていることを確認。

本評議員会が有効に成立した旨を宣言し、各報告事項の説明に入った。

(1) **報告事項**

・ **平成 25 年度自主公演事業計画の一部変更について**

大倉事業課長が報告。

平成 25 年度自主公演事業計画については、当初、54 事業 65 公演を実施する旨承認を受けたが、そのうち追加実施見込みであった 12 事業 12 公演について、5 事業 6 公演を実施し 7 事業 6 公演を取り止めることを決定し、最終的に 47 事業 59 公演となる見込みであることが報告された。

本報告内容に関連し、次の質疑応答があった。

- ・上田評議員：追加実施事業「米海軍第 7 艦隊バンド&海上自衛隊横須賀音楽隊 ジョイント・ホリデーコンサート」は、恒例化するか。
- ・天沼事業部長：市民招待を含めて有意義な事業である。劇場としては、継続実施していきたいとの考えはある。

・ **平成 25 年度第 3 回理事会以降における理事会の決議事項について**

（平成 25 年度第 3 回理事会について）

大倉事業課長が報告。

議案第 10 号の代表理事及び業務執行理事の選任については、役員の任期満了に伴う選出であり、すべて再任されたとの内容であった。

評議員から質疑がなされなかった。

(平成 25 年度第 4 回理事会について)

柳田管理課長が報告。

議案第 11 号の平成 25 年度補正資金については、主な補正理由として、当初見込みを上回る施設利用状況にあるため、利用料が増収となる一方、人件費及び光熱水料費が増額すること、小劇場客席ロビーカーペットの張替え工事など環境整備による完了物件を横須賀市に寄付するために寄付金支出を増額すること、追加実施を見込んでいた芸術普及事業を取り止めたことによる収支の調整、平成 26 年 3 月に満期償還を迎える債券の買替えに伴う予算計上などによるものであるとの内容であった。

評議員から質疑がなされなかった。

(平成 25 年度第 5 回理事会について)

天沼事業部長、柳田管理課長及び大倉事業課長が報告。

議案第 12 号の平成 26 年度事業計画及び予算について、まず事業計画については、平成 26 年度は、当財団が横須賀市立ベイスクエア・パーキングを含む横須賀芸術劇場の指定管理者として第 3 期目の管理期間の開始年度であり、かつ劇場開館 20 周年という節目の年である。劇場が「市民の賑わいと交流を生む場」、「文化振興の拠点」として更に充実するよう、舞台・音楽をはじめとする芸術文化に関する事業を実施し、横須賀の芸術文化の創造及び発展並びに文化的な潤いのある地域社会の実現に寄与していく。また、長年にわたる劇場の管理運営の経験と実績をもって、更なる顧客満足度の向上及び収支改善を図り、適切な管理運営を行うとともに、常に地域に親しまれる劇場として地域の活性化及び芸術文化の振興を図っていく。特に芸術普及事業は、周年を記念する祭典的公演ラインアップとして、話題性、芸術性、大衆性等を強く意識した興味深い事業を数多く計画する。なお、施設の老朽化については、中長期の計画修繕により対応し、施設の安全管理に努めていく。

予算については、周年事業の実施に伴い支出規模が拡大するため、財源確保のために特定資産から 3,000 万円の取崩しを行う。資金収支予算書では、事業活動収支は 4,087 万 5,000 円のマイナス、投資活動収支は 2,381 万円のプラス、予備費支出を含めた当期収支差額は 2,706 万 5,000 円のマイナスとする。一方、収支予算書では、有価証券購入資金、予備費等が減算されるため、当期一般正味財産増減額は 1,125 万 2,000 円のマイナスとなるが、公益目的事業比率は約 80%を確保している。更に「資金調達及び設備投資の見込みについて」に記載する事項はないとの内容であった。

議案第 14 号以降の内部管理体制の整備案件については、それぞれの一部改正又は制定の理由並びに内容骨子の説明があった。

本報告内容に関連し、次の質疑応答があった。

- ・上条評議員：施設の目標稼働率は、平成 25 年度見込みなどと比べて適正か。
- ・原田常務理事：平成 25 年度は当初計画を上回り、特に長期利用が多くあった大劇場は 10%程度好転する見込みである。平成 26 年度の目標数値はそれらも考慮している。
- ・上田評議員：稼働率や利益の向上も大切だが、市民がより多く足を運ぶような環境づくりも心がけてもらいたい。
- ・菊池評議員：周年事業もあり、例年以上に厳しい予算編成ではないか。
- ・原田常務理事：今後の物価上昇をどう捉えるかにもよるが、厳しい予算であることに違いない。周年事業に予算を注ぎ込む分、運用利息、チケット収入等による財源確保にも力を注いでいく。ここ数年は経営努力の成果から黒字決算を継続しているが、同様に経営のスリム化に努めていきたい。
- ・上条評議員：経費節減の結果、事業規模が縮小し、負のスパイラルに陥ることがないように望んでいる。市としても、市民への還元が減ることは本意ではない。引き続き舞台・音楽芸術の普及に努めていただきたい。
- ・天沼事業部長：芸術普及事業、育成事業ともに、事務局の意識は向上しており、開館以来 20 年の経験を活かし事業を展開していきたい。
- ・上条評議員：会計処理規則を一部改正する必要はあったのか。
- ・原田常務理事：従来の会計責任者は部長であった。組織変更を行い 1 部制となるが、部長への責任の一極集中を回避することと、より厳格な経理のチェック体制をとるため、事務局長に改めることとした。
- ・上条評議員：50%以上出損する外郭団体に対しては、その内部管理体制に対する厳しい見方もある。会計処理の厳格化が図られたのは、良いことだ。

・平成 25 年 7 月 1 日以降の職務の執行状況について

小沢理事長、木村副理事長及び原田常務理事に代わり、大倉事業課長が報告。

横須賀市に関連する事項として、指定管理業務に係る月次報告、市議会向け経営状況の報告を行ったことのほか、消費税引上げに伴い申請時の次期指定管理料に増税分が上積みされたこと、市内外の企業に対し事業協賛の依頼を行ったことなどが報告された。

・「第 5 回野島稔・よこすかピアノコンクール」の応募状況について

天沼事業部長が報告。

同コンクールは、平成 26 年 4 月 23 日から 4 月 29 日まで、うち 6 日間で開催する。応募者数は 81 名で、テープ審査の結果、74 名が第 1 次審査に参加すること、野島審査委員長からテープ審査の段階から高評価を得ている旨報告があった。

以上をもって、議事全部の審議及び報告が終了したので、午後 2 時 45 分、議長が閉会を宣し、解散した。

上記議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、この議事録を作成し、議長が記名押印する。

平成 26 年 4 月 4 日

公益財団法人横須賀芸術文化財団

議 長
評 議 員

菊 池 匡 文

印

本議事録の作成にかかわる職務を行った者の氏名

公益財団法人横須賀芸術文化財団

常務理事（事務局長） 原田恵次

管理部管理課 佐久間陽一